

## 文部科学省共同利用・共同研究拠点「社会神経科学研究拠点」主催研究会 「世界や社会と相互作用して生きるヒトや動物の視覚－生理学、心理物理学、計算論」

ヒトが自然環境や人工環境からなる世界や、自己と他者の集団からなる社会と相互作用して適応的に生存していくために、視覚は重要な機能を果たしています。視覚研究は極めて学際的な分野であり、視知覚現象の詳細な報告（現象論）、その適応的機能の考察（機能論）、および神経的・計算的基盤の解明（機構論）について生理学、心理学、計算科学などから多面的にアプローチすることにより発展してきました。そのような異分野交流は今日ますます重要になっています。さまざまな研究分野の研究者が活発なコミュニケーションを行うことによって、知識の共有、研究者間の相互作用から初めて生まれる共同提案、さらに共同研究のシーズづくりが可能となります。このような場は既存の学会では見出しにくいのが現状です。そこで玉川大学脳科学研究所の社会神経科学共同利用・共同研究拠点の活動の一つとして本研究会を開催しました。研究会では100名近い参加者が集まり、質疑応答では時間を超える盛り上がりを見せた。

（脳科学研究所 高岸治人）



日時：2018年9月13日（木）13:00-18:05、

9月14日（金）9:00-12:20

場所：玉川大学大学研究室棟 B104 会議室

話題提供者、およびタイトル：

羽倉信宏（脳情報通信融合研究センター）

「身体運動と視覚意思決定」

中村友昭（電気通信大学大学院情報理工学研究科）

「マルチモーダル情報に基づくロボットによる概念・言語獲得」

高橋達二（東京電機大学理工学部）

「「高次認知」と知覚の理論：認知バイアス、条件文、因果推論」

磯田昌岐（自然科学研究機構生理学研究科）

「自己と他者の報酬情報処理にかかわるマカクザルの皮質・皮質下ネットワーク」

吉本早苗（広島大学大学院総合科学研究科）

「環境光と視知覚 ～順応による運動知覚の変容～」

竹田真己（高知工科大学総合研究所脳コミュニケーションセンター）

「霊長類における脳内視覚記憶システムの多階層性にせまる」

山口真美（中央大学文学部）

「視覚認知発達における社会」

藤田一郎（大阪大学大学院生命機能研究科）

「霊長類扁桃体への脅威信号伝達の迅速視覚経路は存在

するか：生理学・解剖学・ニューラルネット解析」

鈴木敦命（東京大学文学部）

「他者の信頼性の知覚と学習：高齢者と若年者の比較」

宇賀貴紀（山梨大学医学部）

「柔軟な判断の神経メカニズム」

伊村知子（日本女子大学人間社会学部）

「チンパンジーにおける「平均」の知覚」

村田哲（近畿大学医学部）

「頭頂葉における身体表現」

齋木潤（京都大学大学院人間・環境学研究科）

「探索行動における知覚、記憶、意思決定の相互作用：  
採餌課題を用いた検討」

